

秘

五

昭和十三年二月十九日

委員長 櫻井顧問官

委員 河合顧問官

清水顧問官

石塚顧問官

林顧問官

荒木顧問官

松浦顧問官

朝鮮教育令改正ノ件審査報告

五

秘

通學校、高等普通學校及女子高等普通學校トシ
特別ノ事情アル場合ニ限り右ノ兩者相互ニ他
ノ學校ニ入學スルコトヲ得ルノ特例ヲ存スル
ニ止マル然ルニ當局ノ説明ニ依レバ此ノ學制
ノ施行既ニ久シキニ互リ其ノ間朝鮮各般ノ文
化及經濟ノ發達ニ伴ヒテ朝鮮人ニ對スル教育
モ亦漸ク向上シ今ヤ普通學校、高等普通學校及
女子高等普通學校ノ教育ノ内容ハ小學校、中學
校及高等女學校ノ其レニ比シテ略々異ナル所
ナリニ至レリ而シテ輒近朝鮮ニ於ケル一般民

心ノ動向ハ頗ル靜謐堅實ニシテ特ニ今次事變
ノ勃發以來帝國臣民タルノ自覺ヲ深クセルコ
ト顯著ナルモノアリ斯カル趨勢ヲ適度ニ助長
スル爲メ有效ナル施設ヲ講ズルハ固ヨリ當然
ノ措置ナルベキが故ニ朝鮮統治ノ根本義ニ照
シ殊ニ朝鮮教育令ハ本來內鮮人ノ共學ヲ主旨
トスルニ考ヘ竝ニ朝鮮民衆ノ宿望ヲ察シ茲ニ
朝鮮人ニ對スル普通教育ノ機關ヲ內地人ニ對
スル其レニ統合シテ同シク之ヲ小學校、中學校
及高等女學校トスルノ議ヲ定メ此ノ趣意ヲ主

眼トシテ朝鮮教育令ノ現行規程ニ相當ノ改正ヲ加ヘントスルナリ

本件ハ朝鮮教育令全部改正ノ形式ヲ採リタルモ其ノ實質ニ於テハ同令ノ現行規程中國語ヲ常用セザル者ニ對スル普通教育ニ關スル部分及之ニ牽聯アル師範教育ニ關スル部分ニ改正ヲ加ヘントスルモノニシテ其ノ要旨ハ左ノ如シ

普通教育ハ國語ヲ常用セザル者ニ對シテモ亦國語ヲ常用スル者ニ對スルト同シク本則トシ

テ小學校令、中學校令及高等女學校令ニ依ルコ

トニ改メ(舊條ニ條改正)從テ國語ヲ常用セザル者ニ

對スル普通教育ノ機關タル從前ノ普通學校、高

等普通學校及女子高等普通學校ニ關スル條規

ハ總テ不要ト爲ルニ由リ之ヲ削除シ(舊條三條乃至舊條十條ノ

削除並ニ舊條二十三條及第二十四條ノ改正)特別ノ事情ニ因リ國語ヲ常

用スル者ヲシテ普通學校、高等普通學校又ハ女

子高等普通學校ニ入學セシメ國語ヲ常用セザ

ル者ヲシテ小學校、中學校又ハ高等女學校ニ入

學セシムルコトニ關スル條規(舊條二)モ亦之ヲ

削除ス而シテ從前ノ普通學校、高等普通學校及
女子高等普通學校ハ各之ヲ改正規定ニ依リ設
立シタル小學校、中學校及高等女學校トスルノ
外一二ノ經過規定ヲ設ク(附則第五項)而シテ當局
ノ說明ニ依レバ内地人ニ對スルト朝鮮人ニ對
スルトノ普通教育ノ機關ニ於ケル從前ノ種別
ハ此ノ改正ニ因リ名義上全ク解消スルモ其ノ
實體ニ於テハ必ズシモ直ニ内鮮人共學ヲ施行
スルニ非ズシテ現ニ存在スル學校ニ在リテハ
概不沿革ニ從ヒテ現狀ヲ維持セシムベク又今

後設置スル學校ニ在リテハ其ノ經費負擔ノ都
合其ノ他諸般ノ情況ヲ考慮シテ適宜ノ措置ヲ
講ゼシムベシトノコトナリ

尚敍上ノ改正ニ伴ヒ師範學校ニ付テハ其ノ目
的ニ於テ普通學校教員タルベキ者ノ養成ノ事

ヲ削リ(舊條十五條第一項ノ改正)其ノ編制ニ於テ第一部(小學校教

員タルベキ者ヲ)及第二部(普通學校教員タルベキ者ヲ)ノ區別

ヲ廢シ(舊條十四條及第十七條第二項ノ改正)其ノ附屬普通學

校及之ニ代用スル公立普通學校ニ關スル條規

ヲ削除ス(舊條二十條ノ改正)

按ズルニ朝鮮統治ノ年來ノ方針ニ誓ヘ竝ニ朝鮮ニ於ケル最近各般ノ情勢ニ照シ朝鮮教育令ノ精神タル内鮮人共學ノ主旨ヲ更ニ一層事實ニ表現スル爲メ朝鮮人ニ對スル普通教育ノ機關ヲ内地人ニ對スル其レニ統一シ兩者共ニ小學校、中學校及高等女學校トスルハ趣旨ニ於テ事宜ニ適シ時要ニ合スルモノト謂フヲ妨ゲズ唯教育ノ事タルヤ直ニ統治ノ根本ニ觸レ其ノ影響スル所甚ダ深遠ニシテ固ヨリ容易ノ業ニ非ザルガ故ニ當局諸官ノ常時周密ナル注意ニ

由リ運用宜キヲ制スルニ於テ始メテ其ノ成績見ルベキモノアルベシ而シテ前記ノ趣旨ヲ主眼トスル本件朝鮮教育令ノ改正ハ其ノ條項ニ於テモ別ニ支障ノ虞ヲ認メズ仍テ審査委員會ニ於テハ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラルベキモノト全會一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十三年二月十九日

審査委員長

樞密顧問官

櫻井 錠二

審査委員

樞密顧問官

河合

操

樞密顧問官

石塚

英藏

樞密顧問官

清水

澄

樞密顧問官男爵林

權助

樞密顧問官

荒木寅三郎

樞密顧問官

松浦鎮次郎

樞密院議長男爵平沼騏一郎殿

昭和十三年三月五日立案

書記官長



主筆

書記官



書記官



遞信省官制中改正ノ件審査報告

謹デ今回御諮詢ノ遞信省官制中改正ノ件ヲ審

査スルニ本件ハ今般昭和十二年法律第四十四